備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成22年度	根拠法令・例規等	
総合計画	大項目	基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先 担当課（室）	介護福祉課
	中項目	基本施策	01 やさしさあふれるまちづくり	職・氏名	高齢者福祉係長　森中信行
	小項目	施　策	04 高齢者福祉	電　話	64－1827
事務事業名			15 保健福祉実態調査事業	このシート作成に要した時間	0.5 時間

Plan

事業の目的

対　象（誰・何に対して）	高齢者（65歳以上）
目　的（何のために）	第5次高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画を作成するにあたり、資料とするため。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	高齢者の生活実態及びニーズを正しく把握する。

Do

事業の実績

細事業名	事業の説明	優先度
保健福祉実態調査事業	平成23年度に第5次高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を作成する予定となっているが、その資料として高齢者の生活実態及びニーズ等を把握するためにアンケートを実施する。3年ごとに行っている。	○

目的を達成するため実施した事業

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
事業費	直接事業費	千円			851
	必要人員　人件費				0.14人　1,178
	事業費計		0	0	2,029
決算額 財源	国県支出金	千円			856
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源				1,173
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
結果指標	説明		アンケート回収件数		
	結果指標量	事業			1,139
	対前年比	%	－		
	活動コスト	円			2,029,000
	単位当たりコスト		#DIV/0!	#DIV/0!	1,781

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
アンケート回収率	目標値（A）			75.0%	75%
	実績値（B）			71.2%	到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	94.93%	80%

成果指標設定の考え方・式や説明

回収率が高いほど、実施目的に対して精度が高い結果が得られる。また、市民が関心を持っていることに比例して回収率は高くなると考えられる。

Check

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価（市の関与の妥当性・必要性／市民ニーズ）

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**B**

効率性の評価（コスト手段）

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**C**

有効性の評価（目的達成度／市民参画度）

- ☑ 成果指標の設定は適切である
- ☑ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：次回は25年度の実施となるが、次回に向けてアンケート内容の検討、委託業務採用の適否を考える必要がある。

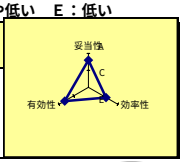
総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

高齢者保健福祉計画を策定するうえで必要な資料を提供する役割を持つ。

実施面では補助金の活用が図れた。

評価区分 <A～E>：**B**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：精度を上げつつ、費用は抑えられるように実施しなければならない。